

月刊 水試ニュース

発行所：愛知県水産試験場（本場）

565号

令和5(2023)年8月

イワシ類長期予報（令和5年8月から12月まで）

漁業生産研究所 海洋資源グループ

太平洋海域におけるイワシ類の長期漁海況予報（予報期間：令和5年8月から12月まで）が、本県を含む関係機関による検討を経て、7月31日に国立研究開発法人水産研究・教育機構から発表されました。このうち、本県および周辺海域の予報は以下のとおりとなっています。

1 海況

黒潮流路：A型基調で推移（図1、2）。

沿岸水温：遠州灘は「平年並」～「高め」で、暖水波及時に「極めて高め」で推移する。

2 マイワシ：漁獲量は前年を下回る。

指標となる春季のマシラス漁獲量は前年を大きく下回っており、西日本の海域における0歳魚の漁獲も低調であることから、2023年級群の加入量は前年を下回る水準と考えられる（図3）。

3 カタクチイワシ：漁獲量は前年を下回る。

7月時点でシラスの内湾の漁場形成がなく、春、夏生まれのシラスは少ないため、成長して漁獲加入する秋冬期の漁獲量も限定的と考えられる。

4 カタクチシラス：漁獲量は前年を下回る。

7月時点で内湾に漁場は形成されず、卵稚仔調査でも内湾の仔魚の採集数は前年を下回っていることから、シラスの発生量は前年を下回ると考えられる。

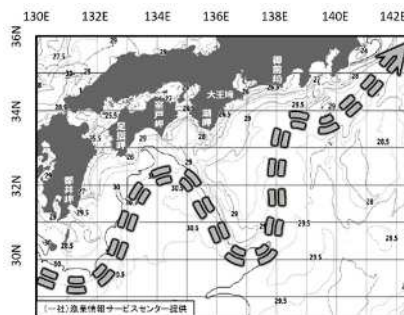


図1 7月28日の黒潮流路

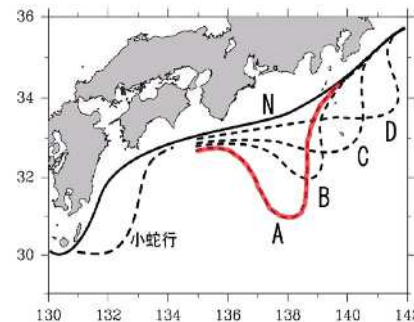


図2 黒潮流型の分類

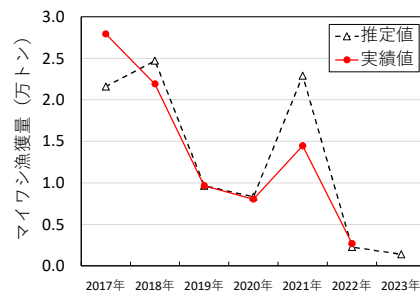


図3 マイワシ漁獲量の予測

詳細は国立研究開発法人水産研究・教育機構のウェブページをご覧ください。

https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2023/20230731_1st_iwashi.html

<https://www.pref.aichi.jp/suisanshiken/>



今年はきてます！一色干潟のアサリ稚貝！

漁業生産研究所 栽培漁業グループ

当グループでは一色干潟のアサリ漁場において、アサリの小型稚貝の出現状況を毎月調査しています。7月に行った調査では、4,799 個体/㎡の分布密度で小型稚貝が確認されました（図4）。過去3年同時期の調査で確認されたのは0～1,818 個体/㎡であったため、近年では高密度な出現となっています。一色干潟漁場では、今年春のアサリ親貝の肥満度が高い水準であったことも確認しており、このことが春の産卵量等に影響した可能性が考えられます。

今後も小型稚貝の出現状況を把握するとともに、漁獲対象となるサイズまでモニタリングしていきます。

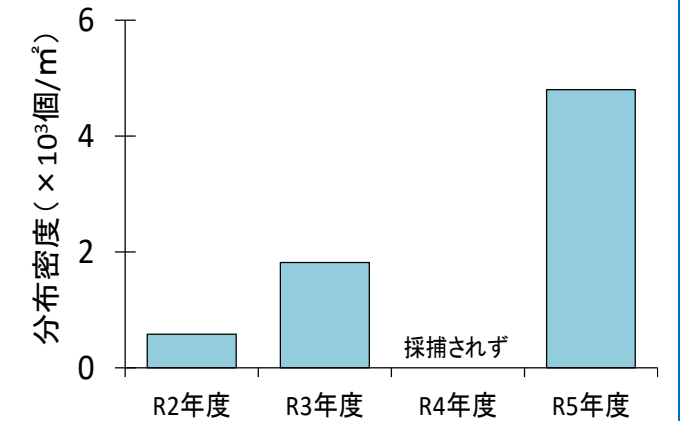


図4 7月のアサリの小型稚貝（殻長5mm以下）分布密度（3地点平均）

環境学習をサポートしています

漁場環境研究部 漁場保全グループ

水産試験場では、県環境局主催で開催されている環境学習に、講師を派遣し、サポートを行っています。

7月29日に小中学生と保護者を対象に開催された「三河湾環境学習会」は、海洋観測等の体験を通じて三河湾の環境について学んでもらうイベントです。イベントの参加者は、県立三谷水産高校実習船「愛知丸」に乗船し、漁業や環境についてのセミナーを受けた後、水質観測、底質調査などを体験し、船内の実習室で、プランクトンの観察を行いました。観測、調査では表層から底層にかけて水温や塩分、溶存酸素濃度が大きく変化することや、底質の状態、植物プランクトンの形や種類の多様さなどに興味を持っていただけたようです。

参加者は実際の海洋観測を体験することで、伊勢・三河湾の漁業や環境への関心を深められたことと思います。今後もこのような活動を通じて豊かな伊勢・三河湾への理解を進めていきます。



図5 三河湾環境学習会の様子

本場	蒲郡市三谷町若宮 97	0533-68-5196
漁業生産研究所	知多郡南知多町大字豊浜字豊浦 2-1	0569-65-0611
内水面漁業研究所	西尾市一色町細川大岡一の割 56-6	0563-72-7643
三河一宮指導所	豊川市豊津町柳不呂 95	0533-93-1433
弥富指導所	弥富市前ヶ須町野方 801-2	0567-65-2488